

科 目		応用指圧実技Ⅰ			
科目分野	専 門 分 野	学 期	前 中 期		
学 年	2 年 次	担当教員	藤田一彦(治療院経営36年) 高橋雄輔(治療院勤務21年)		
単位数	2 単 位				
【授業の概要】 授業形態 実 技					
基本操作を繰り返し修練することにより指圧師に必要な手指の感覚と足腰の動きを修得する。 治療台での施術操作を修得する。 基本操作にある程度習熟した上で応用操作を学ぶ。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・70分を目安に全身操作が出来る。</li> <li>・治療台での施術および基礎的な応用操作が出来る。</li> <li>・施術に必要な解剖学的指標を適切に触診出来る。</li> </ul>					
回	授業計画		回	授業計画	
1	伏臥位の基本指圧		16	伏臥位の基本指圧	
2	治療台での施術 2 横臥位		17	仰臥位の基本指圧 後半	
3	仰臥位の基本指圧 後半		18	予備日	
4	治療台での施術 4 仰臥位後半		19	応用指圧操作(腰下肢)	
5	全身指圧 2		20	応用指圧操作(腰下肢)	
6	治療台での施術 6 全身指圧		21	全身指圧7	
7	全身指圧 4		22	全身指圧8	
8	予備日・復習		23	全身指圧9	
9	応用操作(頸肩四肢)		24	全身指圧10	
10	治療台での施術 応用操作(頸肩四肢)		25	横臥位の応用操作	
11	治療台での施術 応用操作(頸肩四肢)		26	横臥位の応用操作	
12	全身指圧 6		27	横臥位の応用操作	
13	予備日・復習		28	その他応用指圧操作	
14	試験		29	試験	
15	予備日		30	予備日	
教科書 参考書等		指圧療法学(国際医学出版)			
評価方法		実技試験、授業中の態度、出席状況の評価、欠席5点、遅刻・早退・見学2点			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科 目		総合臨床医学(経絡経穴)			
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前 期		
学 年	2 年次	担当教員	青木 美稚子		
単位数	1 単位		実務経験	治療院勤務 13年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取穴、問題演習を通して知識を定着させる。</li> <li>・あん摩マッサージ指圧師国家試験の出題基準穴を把握する。</li> </ul>					
【到達目標】					
経絡経穴に興味を持ち、意欲的に学ぶことができる。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	ガイダンス、経脈と経絡の概要		16		
2	督脈・任脈		17		
3	手太陰肺経・手陽明大腸経		18		
4	足陽明胃経		19		
5	足太陰脾経		20		
6	手少陰心経・手太陽小腸経		21		
7	足太陽膀胱経		22		
8	足少陰腎経		23		
9	手厥陰心包経・手少陽三焦経		24		
10	足少陽胆経		25		
11	足厥陰肝経		26		
12	予備日		27		
13	試験前まとめ		28		
14	試験		29		
15	試験返却、前期のまとめ		30		
教科書 参考書等		新版 経絡経穴概論 第2版 東洋療法学校協会編			
評価方法		小テスト(50%)および前期期末試験の評価(50%)を合計して評価する。 60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満			

科目		運動学			
科目分野	専門基礎 分野	学期	前期		
学年	2 年次	担当教員	石塚洋之		
単位数	1 単位		実務経験	治療院勤務 16年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
1年で学習した解剖学を基礎に機能的な解剖学を行うと同時に運動学の基礎を学習いたします。 リハビリテーション医学の基礎にも運動学があるため、リハビリの授業にもリンクするような内容でも行います。					
【到達目標】					
解剖学やリハビリなど様々な授業で学習する内容を臨床的に活かせるような内容としていきます。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	ガイダンス／動きの軸と平面		16		
2	臨床解剖学(筋の逆作用の理解と臨床への応用):腰部筋・殿部筋・大腿部筋		17		
3	上肢(肩)筋作用(基礎解剖)筋力学の基礎(肩関節)と臨床応用		18		
4	筋力学から考える回旋筋腱板の機能関節包内運動と肩甲上腕リズム		19		
5	上肢(肩)肩障害に対するアプローチとそのプロセス:関節可動域評価／徒手筋力評価		20		
6	運動の種類① 診察における 関節可動域評価		21		
7	運動の種類② OKC (Open-Kinetic-Chain) CKC (close kinetic chain)		22		
8	運動の種類③ isometric/isokinetic/isotonic eccentric-contractionの機能		23		
9	下肢の運動学 腸腰筋・大腿四頭筋(内側広筋)		24		
10	膝運動機能:knee-in-toe-out 膝関節生理学:靭帯機能とSHM/AMRI/ALRI		25		
11	腰部の運動学①		26		
12	筋肉の至適張力／足関節背屈制限と下腿・足部アライメント		27		
13	骨盤アライメントと触診法／ここまでの復習とポイント整理		28		
14	試験		29		
15	試験解説		30		
教科書 参考書等		プリントを使用します。			
評価方法		前期、中期各期に定期試験を行う。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科 目		衛生学・公衆衛生学		
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期	
学 年	2 年次	担当教員	本多 剛	
単位数	2 単位		実務経験	治療院勤務 21年
【授業の概要】 授業形態 講義				
保健医療を担うあん摩マッサージ指圧師として必要となる基本的な衛生学の知識を身につけるため、衛生学の歴史、健康の概念と予防医学、ライフスタイルと外部環境の健康影響、産業保健、精神保健、母子保健、成人・高齢者保健、感染症対策と消毒、疫学、保健統計について概説する。				
【到達目標】				
衛生学の歴史、健康の概念と予防医学、ライフスタイルの健康影響、外部環境の健康影響、産業保健、精神保健、母子保健、成人・高齢者保健、感染症対策と消毒、疫学、保健統計の概要を述べるができる。				
回	授業計画	回	授業計画	
1	衛生学・公衆衛生学の意義 ①	16	ライフスタイルと健康 ①	
2	衛生学・公衆衛生学の意義 ②	17	ライフスタイルと健康 ②	
3	健康 ①	18	ライフスタイルと健康 ③	
4	健康 ②	19	ライフスタイルと健康 ④	
5	保健統計 ①	20	成人・高齢者保健	
6	保健統計 ②	21	母子保健	
7	疫学	22	学校保健	
8	感染症とその対策 ①	23	産業保健 ①	
9	感染症とその対策 ②	24	産業保健 ②	
10	感染症とその対策 ③	25	環境と健康 ①	
11	消毒法 ①	26	環境と健康 ②	
12	消毒法 ②	27	環境と健康 ③	
13	精神保健	28	環境と健康 ④	
14	中期期末試験	29	後期期末試験	
15	試験返却・解説	30	試験返却・解説	
教科書 参考書等	衛生学・公衆衛生学 第2版 東洋療法学校協会編			
評価方法	前期試験と中期試験で評価する。各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科目		東洋医学概論			
科目分野	専門 分野	学期	前中 期		
学年	2 年次	担当教員	久坂 健太		
単位数	2 単位		実務経験	治療院勤務1年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
国家試験を受験する上で必要な東洋医学の基本的知識を習得するために、東洋医学の基本的理念について解説する。					
【到達目標】					
東洋医学の基本思想、人体の生理・病理、診断法を理解する。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	東洋医学の基礎知識		16	蔵象⑤(腎)	
2	陰陽学説		17	六腑の生理・病理	
3	五行学説①		18	五臓の相互関係	
4	五行学説②		19	臓象まとめ	
5	生理事質①(精・神)		20	病因病機①	
6	生理事質②(気)		21	病因病機②	
7	生理事質③(気)		22	望診	
8	生理事質④(血・津液)		23	聞診	
9	蔵象①(肝)		24	問診①	
10	蔵象②(心)		25	問診②	
11	蔵象③(脾)		26	切診①	
12	蔵象④(肺)		27	切診②	
13	問題演習		28	問題演習	
14	前期期末試験		29	中期期末試験	
15	返却・解説		30	返却・解説	
教科書 参考書等		東洋療法学校協会編 新版 東洋医学概論 医道の日本社			
評価方法		前期試験と中期試験で評価する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満			

科目		病理学	
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期
学 年	2 年次	担当教員	小林 匠
単位数	2 単位		実務経験
<b>【授業の概要】 授業形態 講義</b> 正常に構造・機能されている生体に何らかの異常が生じ、いわゆる病気(疾病)となる。 病理学概論では疾病が生じる原因を分類し、各疾病が生理機能のどこに異常が生じているかを説明する。			
<b>【到達目標】</b> 疾病(病変)の大まかな分類とその仕組みを理解できるようにする			
回	授業計画	回	授業計画
1	第1章 病理学とはどのような学問か 第2章 疾病についての基本的な考え方	16	免疫異常アレルギー①
2	循環障害①	17	免疫異常アレルギー②
3	循環障害②	18	免疫異常アレルギー③
4	循環障害③	19	腫瘍①
5	循環障害④	20	腫瘍②
6	退行性病変①	21	腫瘍③
7	退行性病変②	22	腫瘍④
8	退行性病変③	23	先天異常①
9	進行性病変①	24	先天異常②
10	進行性病変②	25	病因①
11	炎症①	26	病因②
12	炎症②	27	病因③
13	炎症③	28	病因④
14	前期試験	29	中期試験
15	解答解説	30	解答解説
教科書 参考書等	医歯薬出版株式会社 病理学概論第二版		
評価方法	定期試験の得点にて評価する 各期における評価が60点以上で単位を認定する		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

科目		臨床医学各論 I	
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期
学 年	2 年次	担当教員	東野 友寛
単位数	4 単位		実務経験 治療院7年 非常勤講師5年
【授業の概要】 授業形態 講義			
治療院全般、トレーナー帯同、運動指導、講師など幅広く活動している講師による臨床医学各論。ただ覚えるだけではなくなぜ疾患になるのかや何に繋がるのかなど思考を広げる講義を目指す。			
【到達目標】			
ただの暗記では無く、疾患の背景など考えを広げることで臨床や試験問題においての対応力を身に着けること。			
回	授業計画	回	授業計画
1	糖代謝異常(糖尿病)	16	心不全・心臓弁膜疾患
2	脂質代謝異常・尿酸代謝異常	17	不整脈
3	その他の代謝異常(ビタミン類)・金属代謝異常	18	先天性心疾患・心筋・心膜疾患
4	整形外科疾患総論・関節疾患	19	狭心症・心筋梗塞
5	関節疾患	20	動脈疾患
6	骨代謝性疾患・骨腫瘍	21	血圧異常
7	筋・腱疾患	22	まとめ
8	中間試験	23	中間試験
9	形態異常	24	赤血球疾患
10	脊椎疾患	25	白血病
11	脊髄損傷	26	悪性リンパ腫
12	外傷	27	出血性素因
13	その他の整形外科疾患	28	まとめ
14	期末試験	29	期末試験
15	解説	30	解説
教科書 参考書等	臨床医学各論第2版(医歯薬出版)		
評価方法	中間テスト(40点)＋期末テスト(60点)＝100点満点で評価する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

科 目		臨床指圧総論Ⅱ			
科目分野	専 門 分 野	学 期	前 中 期		
学 年	2 年 次	担当教員	浪越 雄二		
単位数	2 単 位		実務経験	治療院勤務33年	
【授業の概要】 授業形態 実 技					
1年で学習した基本指圧をふまえ、姿勢、指の使い方、正確な圧点などを学習し治療台での施術、応用操作を学習する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床で使う応用操作ができる。</li> <li>・正確な圧点を指圧することができる。</li> <li>・治療台での施術ができる。</li> </ul>					
回	授業計画		回	授業計画	
1	横臥位の基本指圧		16	横臥位の基本指圧	
2	治療台での施術 1 伏臥位		17	仰臥位の基本指圧 前半	
3	仰臥位の基本指圧 前半		18	予備日・復習	
4	治療台での施術 3 仰臥位前半		19	治療台での施術 腰下肢の応用操作	
5	全身指圧 1		20	治療台での施術 腰下肢の応用操作	
6	治療台での施術 5 全身指圧		21	治療台での施術 復習	
7	全身指圧 3		22	治療台での施術 復習	
8	予備日・復習		23	治療台での施術 全身指圧	
9	応用操作(頸肩四肢)		24	治療台での施術 全身指圧	
10	応用操作(頸肩四肢)		25	治療台での施術 横臥位の応用操作	
11	応用操作(頸肩四肢)		26	治療台での施術 横臥位の応用操作	
12	全身指圧 5		27	その他の応用操作	
13	予備日・復習		28	まとめ・復習	
14	試験		29	試験	
15	予備日		30	予備日	
教科書 参考書等		指圧療法学(国際医学出版)			
評価方法		実技試験、授業中の態度、出席状況の評価、欠席5点、遅刻・早退・見学2点			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			



科 目		臨床医学総論	
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期
学 年	2 年次	担当教員	黒沢 純一
単位数	2 単位		実務経験 治療院勤務 23年
【授業の概要】 授業形態 講義			
患者を理解し、正しく診断して適切な施術を行う上で必要なことは、医療面接から始まり、入念な身体診察を行うことが大切である。適切な診察法を理解し、主たる症候に精通していくために学んでいきましょう。			
【到達目標】			
臨床医学総論は、診察診断学である。患者の持っている所見、特異的症状などを視覚、触覚、聴覚、嗅覚を使い適切に判断する力を身につけることを目標としましょう。			
回	授業計画	回	授業計画
1	第1章 診察の概要	16	第5章 局所の診察
2	第2章 診察の方法	17	第5章 局所の診察
3	第3章 バイタルサインの診察	18	第5章 局所の診察
4	第3章 バイタルサインの診察	19	第5章 局所の診察
5	第3章 バイタルサインの診察	20	第5章 局所の診察
6	第4章 全身の診察	21	第5章 局所の診察
7	第4章 全身の診察	22	中期中間試験
8	前期中間試験	23	試験返却 第6章 神経系の診察
9	試験返却 第4章 全身の診察	24	第6章 神経系の診察
10	第4章 全身の診察	25	第6章 神経系の診察
11	第4章 全身の診察	26	第7章 運動機能検査
12	第4章 全身の診察	27	第7章 運動機能検査
13	第4章 全身の診察	28	第9章 臨床検査法
14	前期期末試験	29	中期期末試験
15	試験返却 第5章 局所の診察	30	試験返却 第9章 臨床検査法
教科書 参考書等	・基本的にプリントを使用し、授業を進める。 臨床医学総論(第2版)公益社団法人 東洋療法学校協会編 奈良信雄著(参考図書)		
評価方法	前期、中期各期に中間試験、期末試験を行い、各試験の平均点数を以て評価する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

科 目		あん摩マッサージ指圧実技			
科目分野	専 門 分 野	学 期	前 中 期		
学 年	2 年 次	担当教員	前期 久保井 律子（治療院経営 3年）		
単位数	2 単 位		中期 本多 剛（治療院勤務 21年）		
【授業の概要】 授業形態 実 技					
前期:タルクおよびオイルを使ったマッサージの基本手技、姿勢、体重移動を学び、臨床に活かせるように練習する。					
中期:あん摩の基本手技のうち、揉捏法、叩打法、曲手の基礎を解説して実践する。揉捏法、叩打法、曲手を駆使したあん摩施術を、座位、側臥位、伏臥位、仰臥位、それぞれについて解説し、実践する。					
【到達目標】					
前期:上肢・下肢に対し、マッサージの基本手技で施術が出来る。					
中期:座位、側臥位、伏臥位、仰臥位の相手に対して、揉捏法、叩打法、曲手を適切に施すことができる。					
回	授業計画(前期)		回	授業計画(中期)	
1	授業の進め方、マッサージの基礎、滑剤の取り扱い		16	揉捏・叩打・曲手の基本練習 ①	
2	タルク、前腕、軽擦法・揉捏法・叩打法の基礎練習①		17	揉捏・叩打・曲手の基本練習 ②	
3	タルク、前腕、軽擦法・揉捏法・叩打法の基礎練習②		18	座位 肩背部	
4	オイル、伏臥位、下腿後面		19	座位 肩背部・頸部	
5	オイル、伏臥位、下腿後面、足底		20	座位 上肢 ①	
6	オイル、伏臥位、大腿後面		21	座位 上肢 ②	
7	オイル、伏臥位、下肢全体		22	臥位 腰部 ①	
8	オイル、仰臥位、下腿前面		23	臥位 腰部 ②	
9	オイル、仰臥位、下腿前面、足背		24	側臥位 肩背部	
10	オイル、仰臥位、大腿前面および内側		25	側臥位 肩背部・頭頸部	
11	オイル、仰臥位、下肢全体		26	側臥位 上肢	
12	オイル、仰臥位、上腕		27	側臥位・仰臥位 下肢 ①	
13	オイル、仰臥位、前腕・手部		28	側臥位・仰臥位 下肢 ②	
14	オイル、仰臥位、上肢全体		29	仰臥位・坐位 頭部	
15	オイル、伏臥位、背部		30	仰臥位 胸腹部	
教科書 参考書等		あん摩マッサージ指圧実技<基礎編> 医道の日本社 配布プリント			
評価方法		・マッサージ実技(前期) 出席状況で評価する。 ・あん摩実技(中期) 出席状況で評価する。 ※出席状況の評価 欠席-6点、早退・遅刻・見学-2点とする。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満			

科 目		リハビリテーション医学			
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期		
学 年	2 年次	担当教員	石塚洋之		
単位数	2 単 位		実務経験	治療院勤務 16年	
【授業の概要】 授業形態 講 義					
リハビリテーション医学の構造と各分野の方法を学びます。各種障害評価と障害・疾患に対するリハビリテーション。リハビリテーションの流れを学びます。					
【到達目標】					
リハビリテーション医学の構造を理解することによって、医療機関でどのような職種が患者に対して何を行っているのか。また、われわれ指圧師が患者に対して医療のどの分野で活躍することができるのかを理解することができます。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	ガイダンス／語源から見るリハ／歴史から見るリハ ／リハ理念／リハ医学の医学全体の位置づけ		16	脊髄損傷のリハビリ(前半)	
2	リハ医学の対象／障害のとらえ方／ 障害のとらえ方の例		17	脊髄損傷のリハビリ(後半)	
3	リハ分野／リハチーム／理学療法：運動療法		18	切断のリハビリ／D.その他の小児疾患	
4	理学療法：運動療法(続き)／関節可動域訓練		19	脳性麻痺(前半)	
5	筋力増強訓練／筋力増強のいろは ／筋協調性訓練／ROM-TとMMTの臨床的応用		20	脳性麻痺(後半)	
6	応用的な運動療法(杖歩行・歩行訓練)／治療体操		21	その他の小児疾患 進行性筋ジストロフィー／関節リウマチ	
7	物理療法(理学療法の続き)		22	関節リウマチ	
8	言語聴覚療法／作業療法		23	パーキンソン病／呼吸器疾患	
9	装具療法と義肢		24	心疾患／五十肩・腰痛(前半)	
10	リハビリテーション看護／障害の評価		25	腰痛(後半)～変形性膝関節症(前半)	
11	3)筋力テスト 粗大運動評価／運動の協調性テスト		26	変形性膝関節症(後半)～／変形性股関節症	
12	日常生活動作の評価(ADLの評価)／合併症の評価 ／運動麻痺の評価		27	大腿骨頸部骨折／正常歩行と異常歩行(前半)	
13	ここまでの復習		28	ここまでの復習	
14	前期期末試験		29	中期期末試験	
15	失行・失認テスト 心理的評価／脳卒中のリハビリテーション		30	第三章 運動のしくみ／運動学の基礎・姿勢とその異常	
教科書 参考書等		授業で配布するプリントを使用して学習いたします。			
評価方法		期、中期各期に定期試験を行う。 リハビリテーション医学授業の各試験の評価を合計／2で評価する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科 目		臨床実習前講習	
科目分野	専 門 分 野	学 期	中 期
学 年	2 年次	担当教員	金子 智久
単位数	1 単 位		治療院勤務3年、出張専門治療院経営22年
【授業の概要】 授業形態 実 技			
臨床実習に入る前に、各科目で学んだ検査法などの知識、技術を整理し、整形外科的徒手検査法などの技術を修得し、実習の流れを事前に確認していく。			
【到達目標】			
整形外科的徒手検査法を習得し、症候に合わせた適切な運用ができる。 臨床実習の流れを理解する。			
回	授業計画	回	授業計画
1	検査法:肩関節 ①	16	
2	検査法:肩関節 ②	17	
3	検査法:頸肩腕 ①	18	
4	検査法:頸肩腕 ②	19	
5	復 習	20	
6	検査法:腰下肢①	21	
7	検査法:腰下肢①	22	
8	検査法:膝関節①	23	
9	検査法:膝関節②	24	
10	復 習	25	
11	復 習	26	
12	試 験	27	
13	試 験	28	
14	関節可動域、腱反射	29	
15	関節可動域、腱反射	30	
教科書 参考書等	必要な資料を適宜配布する。		
評価方法	試験結果および出欠席や授業態度などの平常点により総合的に判断する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

科 目		臨床実習 I			
科目分野	専 門 分 野	学 期	中 後 期		
学 年	2 年 次	担当教員	浪越雄二(治療院勤務33年) 黒沢純一(治療院勤務23年) 大久保直子(治療院勤務20年) 石塚洋之(治療院勤務16年) 青木美稚子(治療院勤務13年)		
単位数	1 単 位				
【授業の概要】 授業形態 実 技					
臨床に必要な問診・検査・評価・施術・記録について総合的に学ぶ。特に患者の状態を適切に評価することを主目的に実習を進める。					
【到達目標】					
患者に対して適切な評価を行えることを目標とする。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	【中期】医療面接		16	【後期】実習①	
2	肩の評価 ①		17	実習②	
3	肩の評価 ②		18	実習③	
4	頸の評価 ①		19	実習④	
5	頸の評価 ②		20	実習⑤	
6	腰の評価 ①		21	実習⑥	
7	腰の評価 ②		22	実習⑦	
8	膝の評価 ①		23	実習⑧	
9	膝の評価 ②		24		
10	施術録について		25		
11	ロールプレイ ①		26		
12	ロールプレイ ②		27		
13	施術録作成		28		
14	試 験		29		
15	予備日		30		
教科書 参考書等		必要な資料を適宜配布する。			
評価方法		試験結果から評価する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科 目		臨床指圧各論Ⅰ			
科目分野	専 門 分 野	学 期	後 期		
学 年	2 年次	担当教員	本 多 剛		
単位数	1 単 位		実務経験	治療院勤務21年	
【授業の概要】 授業形態 実 技					
基本指圧をベースに、臨床で使用できる応用操作を解説する。					
【到達目標】					
基本指圧と応用操作を組み合わせた臨床指圧操作を修得する。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	頸部・肩甲間部の流動圧法と肩甲骨の運動操作		16		
2	仰臥位での頸部指圧操作 ①		17		
3	仰臥位での頸部指圧操作 ②		18		
4	胸部・上腕の指圧と肩関節の運動操作		19		
5	前腕の指圧と手関節の運動操作		20		
6	肩甲下部・骨盤周囲の指圧 ①		21		
7	肩甲下部・骨盤周囲の指圧 ②		22		
8	横臥位での応用指圧操作		23		
9			24		
10			25		
11			26		
12			27		
13			28		
14			29		
15			30		
教科書 参考書等					
評価方法		出席状況で評価する。 ※出席状況の評価 欠席－6点、早退・遅刻－2点とする。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科 目		東洋医学臨床論 I		
科目分野	専 門 分 野	学 期	後 期	
学 年	2 年次	担当教員	黒沢 純一（治療院勤務23年）	
単位数	1 単 位		金子 泰隆（治療院経営21年）	
【授業の概要】 授業形態 講 義				
<p>前期中期で学んだ「東洋医学概論」「経絡経穴概論」の東洋医学的思想を元に、東洋医学を臨床的に適切に用いることができるよう学ぶ。 東洋医学の全体像をつかめるよう、復習を兼ねて臓腑弁証を中心とした学習をする。</p>				
【到達目標】				
<p>東洋医学における人体観を理解し、証を立てることができる力を身につける。 気血津液弁証・経絡弁証や八綱弁証を学び、3年次に始まる臨床実習で役立つ知識を身につける。</p>				
回	授業計画（黒沢）		回	授業計画（金子）
1	八綱弁証①		16	陰陽五行論について、東洋医学の人体のとらえ方について
2	八綱弁証②		17	蔵象について
3	気血津液弁証①		18	東洋医学の疾病観について
4	気血津液弁証②		19	四診について
5	経絡弁証①		20	弁証論治について
6	経絡弁証②		21	要穴について
7	後期期末試験		22	期末試験、問題演習
8	試験返却 解説 経絡経穴と現代医学研究		23	試験返却、問題演習
9			24	
10			25	
11			26	
12			27	
13			28	
14			29	
15			30	
教科書 参考書等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的にプリントを用いて授業を進める。</li> <li>・新版 東洋医学概論 公益社団法人 東洋療法学校協会編</li> <li>新版 経絡経穴概論 公益社団法人 東洋療法学校協会編</li> </ul>		
評価方法		後期末試験の点数を元に評価をする。		
成績評価指標		<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満</p>		